

令和7年度第5回緑の相談広場

多肉植物の育て方完全ガイド!初心者でも失敗しない水やり、植え替え、増やし方



多肉植物はユニークな見た目と育てやすさで近年ますます人気が高まっています。この記事では、初心者の方でも安心して多肉植物を育てられるよう、水やり、肥料、植え替え、増やし方などの基本を詳しく解説します。また、室内での育て方や、徒長した場合の対処法、おすすめの種類なども紹介します。

多肉植物とは？その魅力と特徴

多肉植物は葉や茎に水分を蓄える植物の総称です。砂漠や乾燥地帯の過酷な環境に適応するために進化した植物群で、水分を効率的に蓄えられるため乾燥に強く手間がかかりません。

ユニークな形状や色彩も魅力的で、インテリアグリーンとして多くの人に愛されています。

代表的な多肉植物の種類

多肉植物には様々な種類があり、それぞれ形や色、育て方が異なります。

種類	特徴	育てやすさ
セダム	小型で可愛い種類が多く、寄せ植えに適している	★★★★★
エケベリア	ロゼット状の葉が美しく、色や形のバリエーションが豊富	★★★★☆
クラッスラ	ユニークな形状の葉を持つ種類が多い	★★★★☆
ハオルチア	透明感のある葉が特徴的で、室内でも育てやすい	★★★☆☆
アエオニウム	木立状になる種類が多く、存在感がある	★★★☆☆

その他にも、コチレドン、グラプトペタルム、リプサリスなど多様な種類があります。専門店ではそれぞれの種類に合わせた育て方のアドバイスを受けられます。

初心者におすすめの選び方

初心者の方は育てやすい品種から始めるのがおすすめです。置き場所や環境に合わせて適した種類を選びましょう。

環境条件	おすすめの種類	特徴
日当たりの良い場所	エケベリア、アエオニウム	日光を好み、鮮やかな色合いになる
日当たりの悪い場所	ハオルチア、ガステリア	半日陰でも育つ
小さなスペース	小型種(セダム、リトープスなど)	スペースを取らず育てやすい
広いスペース	大型種(アガベ、クラッスラなど)	存在感があり、インテリアのアクセントになる

また、葉の色や形、模様など好みに合わせて選ぶのも楽しみ方の一つです。複数の種類を組み合わせたオリジナル寄せ植えも魅力的です。

多肉植物の基本的な育て方

多肉植物は比較的丈夫ですが、いくつかの基本ルールを守ることにより健康に育てられます。適切な置き場所選び、水やりのタイミング、そして最適な土と肥料の選択が重要なポイントです。

最適な置き場所：日当たりと風通し

多肉植物は基本的に日光を好む植物です。日当たりの良い場所に置くことが大切ですが、真夏の直射日光は強すぎるため葉焼けの原因になります。夏場は遮光ネットなどを使って日差しを和らげましょう。

ポイント

- ・風通しの良い場所に置く(病虫害予防に効果的)
- ・室内の場合は窓際など明るい場所を選ぶ
- ・定期的に屋外で日光浴させる(急な強光は避ける)

水やり：季節ごとの頻度とタイミング

多肉植物の水やりは季節や種類によって頻度やタイミングが異なります。

季節	頻度	注意点
春・秋(生育期)	土が完全に乾いたらたっぷり	鉢底から水が流れ出るまで与える
夏(休眠期)	月に1～2回程度	軽く湿らせる程度
冬	月に1回程度	最小限に控える

多肉植物は乾燥に強いため、水の与えすぎは根腐れの原因となります。葉に水がかからないよう株元に水を与え、特にロゼット状の葉を持つエケベリアなどは葉の間に水が溜まらないよう注意しましょう。

土と肥料：適切な用土と与え方

多肉植物の土選びは非常に重要です。水はけの良い土を好むため、市販の多肉植物専用の土がおすすめです。自分で配合する場合は、以下の材料を混ぜて水はけの良い土を作りましょう。

おすすめの配合例

- ・赤玉土(小粒)：50%
- ・鹿沼土：30%
- ・軽石：20%

肥料は生育期の春と秋に、薄めた液体肥料を月に1回程度与えます。肥料を与えすぎると徒長の原因になるため注意が必要です。リン酸分の多い肥料が好ましく、液体肥料を規定の倍率に薄めて使用しましょう。

多肉植物の植え替えと増やし方

多肉植物の魅力を長く楽しむためには、適切な植え替えが欠かせません。ここでは、多肉植物を上手に植え替え、増やすためのポイントを解説します。

植え替え：適切な時期と方法

植え替えは根詰まりを防ぎ、生育を促進するために1～2年に1回行いましょう。生育期の春または秋に実施するのが最適です。

植え替えの手順

1. 古い土を優しく払い落とす
2. 傷んだ根や枯れた根を取り除く
3. 鉢底に鉢底石を敷く
4. 新しい土に植え付ける
5. 数日後、土が乾いてから水やりを行う

植え替え後は直射日光を避け、明るい日陰で管理します。1週間程度経ったら徐々に日光に慣らしていきましょう。

葉挿し：簡単な増やし方

葉挿しは多肉植物を増やす方法の中でも比較的簡単な手法です。

葉挿しのステップ

1. 元気な葉を親株から優しく取り外す
2. 数日間乾燥させる（切り口から雑菌の侵入を防ぐ）
3. 水はけの良い土の上に置き、軽く土を被せる
4. 直射日光を避け、明るい日陰で管理する
5. 霧吹きなどで適度に水を与える
6. 数週間後、葉の根元から根が生え、芽が出てくる
7. 芽が十分成長したら鉢に植え替える

エケベリアやセダムなどは葉挿しが比較的容易です。

挿し木：茎からの増やし方

挿し木は茎をカットして土に挿す方法で、葉挿しより比較的早く成長します。

挿し木の手順

1. 元気な茎を親株からカットする
2. 数日間乾燥させる
3. 水はけの良い土に挿し、軽く土を被せる
4. 直射日光を避け、明るい日陰で管理する

5. 適度に水を与える
6. 数週間後、茎の切り口から根が生える
7. 根が十分成長したら鉢に植え替える

クラッスラやアエオニウムなどは挿し木が比較的容易です。清潔なハサミやカッターを使用し、挿し木後は風通しの良い場所に置きましょう。

多肉植物のトラブルシューティング

多肉植物を育てていると、徒長、葉焼け、根腐れなどの問題に遭遇することがあります。これらの問題は適切な処置を行えば回復可能ですので、それぞれの原因や対策について解説します。

徒長

徒長とは多肉植物の茎や葉が間延びしてしまう現象です。主に日照不足と水やりのしすぎが原因で起こります。見た目が悪くなるだけでなく、株が弱ってしまうこともあります。

対策

- ・徒長した部分をカットする（カットした部分は葉挿しや挿し木に利用可能）
- ・日当たりの良い場所に移動させる
- ・水やりを控えめにする
- ・風通しの良い場所に置く

葉焼け

葉焼けとは強い日差しにより多肉植物の葉が焼けてしまう現象です。特に真夏の直射日光や午前中の強い日差しに注意が必要です。

対策

- ・遮光ネットを使用して日差しを和らげる
- ・レースカーテン越しの光や明るい日陰で管理する
- ・焼けた葉は取り除き、直射日光を避ける

ハオルチアやガステリアなどは特に葉焼けを起こしやすいので注意が必要です。

根腐れ

根腐れは水分の過剰や通気性の悪さによって根が腐ってしまう現象です。主に水のやりすぎと水はけの悪い土が原因です。葉が黄色くなったり、しおれたり、株全体がぐったりしたりします。

対策

- ・早急に植え替えを行う
- ・腐った根を取り除き、健康な根だけを残す
- ・水はけの良い土に植え替える
- ・数日後、土が乾いてから水やりを再開する

根腐れを防ぐには水やりを控えめにし、水はけの良い土を使用することが重要です。

まとめ：多肉植物と素敵なグリーンライフを

多肉植物はユニークな形状や可愛らしい姿で私たちの生活に彩りを与えてくれます。乾燥に強く手間がかからないため、忙しい現代人にもぴったりの植物です。

お気に入りの多肉植物を見つけて自分だけのオリジナル寄せ植えを作ったり、プレゼントとして大切な人に贈ったりするのもおすすめです。多肉植物を通して自然との触れ合いを深め、心豊かな生活を送りましょう。